

<p>ナザレン教會第一回年會</p> <p>標記の年會は11月4日より6日まで京都の本町ナザレン教會堂に於て開催され一同多大の祝福を蒙つた。今年會にて任命されし役員は以下の如きものである。</p>	
<p>× ×</p> <p>日本ナザレン教會役員</p> <p>總理 W・A・エコール</p> <p>書記 大久保 進</p> <p>會計 船越多吉</p> <p>傳道區</p> <p>關東區幹事 北村武雄</p> <p>諫山修身</p> <p>近畿區幹事 瀨尾要造</p> <p>中國區幹事 喜田川四郎</p> <p>九州區幹事 久保木英一</p> <p>資格審査委員 ○喜田川 廣</p> <p>村上善一 大江 信 馬宮義治</p> <p>上田徳太郎</p> <p>教會學校委員 ○永松幾五郎</p> <p>木田愛信 三枝定雄 橋本寛治</p> <p>片岡武一</p> <p>出版委員 ○瀨尾要造</p> <p>水間武雄 依田豊七 大江 信</p> <p>遠藤貞一朗</p> <p>教育委員 ○喜田川 廣</p> <p>諫山修身 永松幾五郎 大羽 儔</p> <p>中田羽後</p> <p>婦人會委員 ○喜田川豊子</p> <p>諫山照子 船越光子 大江波満</p> <p>久保木カズ子 大久保濱子 長瀬李香</p> <p>NYP5(青年會)委員○原田定男</p> <p>大槻龍二 仲村亀太郎 福岡武男</p> <p>上松 武 持田哲彌 櫻井鶴太郎</p> <p>木田愛信 大羽弘道</p> <p>傳道委員</p> <p>關東區 諫山修身</p> <p>近畿區 ○瀨尾要造</p> <p>中國區 馬宮義治</p> <p>九州區 大江 信</p> <p>谷川勝利</p> <p>會堂建築委員 幹事會</p> <p>(各區幹事に書記會計を加へし7名)</p> <p>財團法人委員 ○W・A・エコール</p> <p>H・ハムリン 諫山修身 喜田川 廣</p> <p>大江 信</p> <p>○印は委員長</p>	
<p>【任 命 表】</p> <p>關東區</p> <p>下北澤教會 諫山修身</p> <p>東京都世田谷區代田2丁目1058</p> <p>目黒教會 大久保 進</p> <p>東京都世田谷區池尻町236</p> <p>本郷動坂教會 上田徳太郎</p> <p>東京都世田谷區北澤2丁目257</p> <p>城北教會 依田豊七</p> <p>東京都品川區大井原町5302</p>	

<p>中野教會 北村武雄</p> <p>東京都中野區本郷通2丁目37</p> <p>太田教會 木田愛信</p> <p>群馬縣新田郡太田町2の1003</p> <p>塚原賢三郎方</p> <p>學園教會 木田文治</p> <p>大羽弘道</p> <p>千葉市若松町聖書農學園内</p> <p>近畿區</p> <p>本町教會 喜田川 廣</p> <p>京都市東山區本町七條下ル</p> <p>上京教會 村上善一</p> <p>京都市上京區烏丸通中立賣角</p> <p>堀川教會 船越多吉</p> <p>京都市下京區五條通岩上角</p> <p>西院教會 三枝定雄</p> <p>京都市中京區御前通四條上ル</p> <p>嵯峨教會 櫻井鶴太郎</p> <p>京都市右京區嵯峨角倉町11</p> <p>伏見教會(兼)瀨尾要造</p> <p>勝山教會 同</p> <p>中國區</p> <p>水島教會 喜田川四郎</p> <p>岡山縣淺口郡連島町瑞穂町1丁目</p> <p>西川教會 馬宮義治</p> <p>岡山市上西川186</p> <p>廣島教會 長瀬李香</p> <p>廣島市段原日出町258</p> <p>今治教會 遠藤貞一郎</p> <p>今治市黄金通91</p> <p>呉教會 持田哲彌</p> <p>島根縣簸川郡久村</p> <p>(兼)大江 信</p> <p>別府市流川町3丁目</p> <p>九州區</p> <p>別府教會 大江 信(前出)</p> <p>熊本教會 久保木英一</p> <p>熊本市大江町九品寺1成瀬榮八方</p> <p>八幡教會 橋本寛治</p> <p>八幡氏槻田東鐵町5の906</p> <p>福岡教會 上松 武</p> <p>福岡市春吉4番町706</p> <p>大牟田教會 福岡 武男</p> <p>大牟田市不知火町2丁目160</p>	
<p>【無 任 所】</p> <p>永松幾五郎</p> <p>東京都世田谷區代田224 飯泉方</p> <p>水間武雄</p> <p>東京都豊島區千早町1の29の9</p> <p>藤原忠志</p> <p>東京都足立區千住緑町3</p> <p>小林文夫</p> <p>大阪市住吉區安立町5丁目40</p> <p>片岡武一</p> <p>山口縣熊毛郡 代村3940</p> <p>本末秋義</p> <p>門司市大里沖田町8丁目</p> <p>原田定男</p>	

<p>福岡市北濱町4丁目33</p> <p>仲村亀太郎</p> <p>熊本縣荒尾市大島區熊本15棟</p> <p>谷川勝利</p> <p>熊本市山崎町5</p> <p>大槻龍二</p> <p>熊本市大江町九品寺319</p> <p>【未復員】</p> <p>高松伊造</p> <p>遺族住所 京都市伏見區深草墨染町40</p> <p>キリスト教會内</p> <p>山本繁夫</p> <p>門司市大里沖田町8丁目</p> <p>佐竹?郎</p> <p>(地名は牧師の住所にて教會の所在地ならざるものあり)</p> <p>W・A・エコール</p> <p>東京都世田谷區三軒茶屋町193</p>	
--	--

お知らせ

△總理は12月13日出發、日本傳道に關する重要任務を帯びて歸米。
△北村幹事は此度新宅に落着かれた。東京都中野區本郷通2丁目37
△依田師父子は病氣恢復、「諸師の祈に答へられ死ぬべき處を癒され二人共感謝に溢れてゐます。」とあつた。
△橋本師には年會出席中三男出生。
△大江師の父君は一時憂慮されたが今は恢復された。
△教團離脱の手續きは11月18日完了。
△大阪傳道の爲に贈られしコンセツト・ハツトは無事到着、目下市電桃谷停留場前の敷地に建築中である。従つて教會名は今後、桃谷ナザレン教會である。
△近畿區では1月中旬、大久保師を招き、ナザレン教會復興記念聖會を開催決定
△本誌は今のところ發行部數少きため、誌代は之以下では經營不能に陥るの外ない。諸教會には本誌發展の爲、會員求道者にもれなく購買方お勧め願ひたい。そして將來増頁をまなしうるやう御協力を乞ふ。
△當出版部では、さきに「第一回年會議事録」(送料共5圓)を發行したが既に品切となつた。尚ほ近い中にJ・B・チャプマンの小論集(定價約10圓)及び傳道者向きの月刊新聞(プリントで送料共約5圓)を發行せんと準備中である。希望者は必要部數御申込を乞ふ。
△今後出版資金さへあれば信者未信者向きの書籍を逐次發行したく願つてゐる。文書傳道の急務を痛感さるる特志者には此際奮つて御獻金あるやう願ひする。
△振替口座が出来るまでは小爲替(現金封入は嚴禁)にて御送金を乞ふ。
△「ナザレン新報」の題字は諫山師の筆になるものである。

昭和二十二年十二月二十八日印刷納本	編輯發行人
昭和二十三年一月一日發行	發行人
同日	京都市下京區正面通河原町東入
ナザレン教會	瀨尾要造
出版部	
印刷所	印刷人
大阪?印刷株式會社	村上正彰
郵送料	定價一部
一圓二十錢	三圓五十錢
共五十六圓	一ヶ年送料

ナザレン新報

— 1948・1・1 — 創刊號

主イエスより承けし職(日本ナザレン教會再興の日)

(徒廿〇十七—二八。羅一〇十四—十七。)

冷嚴なる審判の下に我が祖國は遂ひに敗戦を宣告された。この痛々しき現實は我等に國家の興亡は盾戈によつて決定されるものではなく、歴史を指導し給ふ神によつて其の運命が決せられることを意識せしめた。

昔日の詩人もまた「なんぢかれの劍の刃をふりかへして戦闘にたつに堪えざらしめたまひき」と秩序ある神の支配を確認してゐる。

我らはラケルの悲しみを思はしめられる祖國の姿に、深き反省と懺悔を以つて慟哭の祈禱を捧げしこと幾度であつたらう。

然れど攝理の神は我らの想像だにせざる經綸を以つて、新しき時代を招來せしめ給ふた。併し現實は嘗つてなき混迷の濁流に翻弄されてゐる。秩序の官能を喪失せし時代は、まさにガダラ墓畔に叫ぶ狂人にも等しき有様である。

ナイル河畔に呻吟するイスラエルに耳を傾け給ひし神は、救助者としてモーセを遣はし給ふた。イザヤ、エレミヤの召命は決定的なものとして其の時代に意義ふかく反映してゐる。故に神は如何なる時代にも、いたづらに人を選び群れを興し給ふことはない。

いみじくも今日、日本ナザレン教會が四十年の歴史と傳統の下に、群として再興せしめられたことは、まさに重大なる配時的使命あり、と痛感するものである。しかも我等の直面せる時代は、中世の歐州、十八世紀の英國にもまさる未曾有の時代である。豫言者の派遣は神の言に依り、教會の復興は神の聖旨にある。

今我らは嚴然たる神の聖手に捉へられ、ヨナの如くこの時代に投げ出された者である。ここに於て我らはパウロの如く深く召命意識に燃えて、主イエスより承けし職の重きに畏れ戦かざるを得ない。彼パウロは天の啓示に背かずしてエルサレムに上らんとせし時「視

よ今われは心搦められて、エルサレムに往く、彼處にて如何なる事の我に及ぶかを知らず、ただ聖靈いづれの町にても我に證してなはめと患難と我を待てりと告げ給ふ。然れど我わが走るべき道程と主イエスより承けし職すなはち神の恵みの福音を證する事を果さん爲には固より生命をも重んぜざるなり」と彼は福音宣證のために、主イエスより承けし職の絶對的意義を確信し獻身的な行動に己を托した。

ここに於て我等は日本ナザレン教會再興の日、靜かに創立者ブリジー博士とその小き群が有せし信仰的決意を回顧し感激に堪えない。メソヂストの生命運動に端を發せし、我がナザレン教會は聖化されたる同志的結合により、その^{えはつ}衣鉢を嗣ぐ者として迫力ある人格を以つて福音の宣證に進進いたしたい。

特に近年口頭禪的聖潔運動に對して、激しい批判と嘲罵の聲を聴く。我らは深き反省と決意を以つて福音原理の實踐に責任ある行動をとる者でありたい。尚我ら教職としても信徒としても、深き關心を有すべきは、この時代がもたらす教會の動きである。

古來基督の教會が世に歡迎せられし時、しばしば福音の本質を傳播せずして形而下的なものを移植し、かえつて自らを毒するの愚を招來し、教會歴史に其の汚點を止めし事を認むるであらう。故に教會の本質的使命を鮮かに宣布するために群としての信條的性格を明確に把握せねばならない。

勿論我らは信條の字義的解釋に止まらずして、ウエスレーの強調せし聖靈經驗を以つて教職遂行の基底とすべきである。斯る「内的證明」こそ福音宣布の鍵である。

終りに我らは斯る靈的運動がややに展開され行く今日、「國破れて山河あり」とは言え、今尚不如意なる社會環境に在る同勞の士を深く思はざるを得ない。神よ願はくは速かに福音の門戸を解放し、同勞の友をして黄熟せる福音の田野に共働の歡喜を分か給へ。

(大久保進)

^[1] 衣鉢 (えはつ、いはつ)：仏教用語で「師の道を伝えること」という意。

體驗と教育

－ナザレン將來の課題－

「基督教は若しそれが超自然的のものでなければ何物でもない。」との言があるが、福音は天よりのものであり、また絶えず彼處より享受さるべきものである限り、この言は妥當であらう。然しながら、この絶対永遠的なものが降下し、またそれが受納れられる場所は相對時間的な地上である。茲に種々なる自然的要素がそれに附着されねばならぬ理由があらう。

いつの時代にも、之に關聯を有する種々の對立した問題が惹起されて來たが、その一つである「體驗と教育」の問題をここに取上げて見たい。勿論以下に於て體驗といふは、心の變化とか、新生とか、聖靈に満たさるる事の結果、曾て憎みしものを愛し、愛せしものを憎む、といふ如き、愛情とか願望の變化が、神の聖靈によりて惹起され、生々とした神認識と聖き生に入らしめらるるが如き、を指すものである。世には斯の如き體驗を重視し、信仰的な教育、訓練等を輕視するグループと、丁度その反對であるグループとが隨時隨處に見られるものである。

さて冷靜に觀察して、體驗を輕視する傾向のグループに現れる危険に次の如きものがあらう。

その一つは、活ける個人的な救主に對する信仰が律法的な業に取り替へられる危険である。それは受洗と入會と教會規則の遵守また善行と聖き生活が彼等の究極の救の希望また據り所となる。彼等にその生活の改革(Reformation)はあつても、それは往々にして心情の變貌(Transformation)から由來せるものではない。

その二は、斯かる體驗を輕視する結果として、所謂非福音的な社會的基督教(Social Gospel)が流行を極めるに至る。

それは基督を有たざる基督教であり、基督は單なる模範であり、社會改良家である。「我等は基督を信じない、基督と偕に神を信ずる。」といふのが彼等の信條である。

世は基督を信ぜずして、基督が地上に成し給へる御業の結果を受納れるに熱心である。教會にこの感化が及ぶところ、そこには社會に喜こばるゝ公益事業、文化施設(之は大いに設けたいが)はあつても教會は屢々「味を失ひし鹽」である。

第三に、最も怖るべき危険は靈性の漸次的低下がそれである。

我等は容易に環境に支配される。世俗的精神は我らの標準を低めこそすれ高めることは滅多にない。教會が社交クラブと變わらなくなればどうだらう。教會船の？はりは世俗の怒濤が逆巻く。この船が水づかりに

なつた時は萬事休す、である。教會が俗化より守られる唯一の途は教會が深き反省と懺悔の精神を以って祈らざる罪を告白し、くづれし祈祷の祭壇を再興し、聖なる天の靈火が降下するまで祈り始める事以外にない。體驗を輕視する結果は、枯死したる正統主義でなければ教會の世俗化である。

此の意味に於て、かのニューマンの奇矯な言も首肯される。－「餘は餘の確信する所を語るを禁ずる能はず。此の國の宗教が今日よりも一層迷信的に、一層幽鬱に、一層猛烈にありたらば、國のため利益ありたらんものを。」

之に反して教育を輕視する傾向のグループに現れる危険は如何？

第一に、それは兒童の教化に對する無關心がそれである。大人の救靈に急である教會で、教會學校(舊稱日曜學校)の働は極めて冷淡である場合がある。

第二は、新生または聖化の、體驗後の歩み、とか修養の面が閑却される事がそれである。「草苑の羊」は注意深く監督され、また養はれなければならぬ。敬虔は規律正しく修行されねばならぬ。

第三に、それは體驗の理論的反省の缺如である。自らの生くる體驗の信仰は進んで他を生かす信仰とならねばならぬ。福音の眞理の内證は外證とならねばならぬ。その爲めには自らの純正なる聖靈經驗が、理論また倫理の媒介を経、他をして首肯せしめ、進んで其れを求めしむるに至るものとならねばならぬ。

斯して我らは心理學また哲學の説明し得ざる我らの靈魂の深奥になさるる聖靈による内的變化を體驗すること愈々確實なると共に、それが我らの品性と良識にも具現し、以て思考する人々(Thinking World)の眞摯なる欲求にも應ふるものでありたい。蓋し「全體の啓示は顯現と共に靈感を要し、事實と同様、思想を要する。言なき事實は啞であり事實なき言は空虚である」から。

ナザレン使徒行傳

○一八九五年、北米加州ロサンジェルスに於て、ブリジー博士が「聖潔の恵」の體驗を主張して、メソジスト派と袂を別ち、彼の所謂「星の下を歩き出でた」のである。◇初め粗末な小屋で傳道し、やがて同土相集つて遂にナザレン教會と呼ぶりバイバル起り、至る處で修養會の如き聖會がもたれ、此の恵に入る者多く、東にペンテコステ教會起り、南にホーリネス教會起り、之らは期せずしてナザレン教會への加入を申込んだ。◇その後も信仰を同じうする小教派が參加してナザレンは急に盛大になつたのである。◇ナザレンの信仰は「救ひと聖潔」の體驗に重きを置き、其他に就ては各自の信仰を尊重しあふのである。それで再臨の信仰、神癒の信仰、バプテスマの方法などは各自の希望にまかす。◇それで“unity in essential charity is non essential”(重要な點には一致、不重要點に於ては寛容)といふ語を用ひてゐたのである。◇ナザレンは若年であるが進歩的であるので、ブリジー博士は「太陽は朝には決して没しない」と言ふてゐた。(喜田川)

御靈の果なる愛

アンドリュー・マーレー

私は實際的方面より聖靈にて満たされし生活の事實に注意し、それが如何に我等の日毎の歩みと行状に表はれるかを語りたい。

舊約に於ては諸君の知ることく聖靈は神の奧義をあらはす啓示の御靈として、また神の業をなすべき能力として屢々人々に臨んだ。然しその時御靈は彼等の中に住み給はなかつた。今や多くの人は舊約的な、働きの爲に能力の賜物を願ふが我等の生活全部を活かし更新する、新約の賜物なる内住の御靈に就て知る？ころ乏しい。神が御靈を與へ給ふとき、その重大なる目的は聖なる品性を形成し給ふにある。我等はそれにより聖き思念(mind)と靈性(spiritual disposition)を與へられる。他のいかなるものよりも我等に必要なことは－

「もし私が眞實、神の榮光のために生きんとせば、私は聖靈により私の内的生活の全部を聖められねばならぬ。」と言ふにある。

諸君は、キリストが弟子達に御靈を約束し給ひし時、それは彼等が證人たるべき能力を受けんが爲ではなかつたか、と言われるかも知れぬ。それに相違ない。然しその時彼等は天的な能力と現實に於て聖靈を受けたので、それは直ちに彼等の全存在を占有し、斯して彼等を聖き人々として、なすべき働きをば能力をもて爲すに相應しからしめ給ふたが、それは彼等の全存在を満たし給ふ聖靈が能力を生ぜしめ給ふといふ事であつた。

さて今よりガラテヤ5章22節の聖句に就て考へたいと思ふ。

「御靈の果は愛なり」

他の箇所には「愛は律法の完全なり。」(ロマ13:10)とある。私は二重の目的をもつて御靈の果としての愛に就て語りたい。一つは、この語は我等の心を探る光であること。また其れに依り、聖靈に就ける我等の一切の考へと、聖き生活に就ける一切の經驗とを試験するところの一つのテストを與へるにある。では此の語により我等自らを試みて見よう。我等はその全部を愛の御靈なる聖靈に満たさるる事を日毎に尋ね求めて來たか？「御靈の果は愛なり。」我等がより多く聖靈を有すればより多く愛するものとなる事が我等の經驗であつたか？聖靈を求むるに際し、我等はこの事を我等の期待の第一目的となすべきである。そは聖靈は愛の御靈として來り給ふからである。

嗚呼、もし此れがキリストの教會に於て？られなければ、教會の状態は如何に異なれるものであらう！願はくは神、我等を助け給ひて、御靈の果は生活に顯はるゝ愛であり、正しく聖靈が生活を現實に占有し給ふとき、心は眞實、神のかつ普遍的愛に満たさるるものなり、との單純なる天的眞理を把握せしめ給はんことを。

神は何故その教會を祝福し得ないか、その大いなる原因の一つは

愛の缺乏

之である。體が分裂すれば力のあらう筈がない。和蘭が西班

－祈り－

あゝ主なる神、わが魂を愛し給ふ者、なれわが魂にきまさばわが裏なるものみなよろこばん。なれはわが榮えわが歡び、なれはわが望わが？みの日の？家なり。すべて惡しき願ひより我を放ち、吾まゝなる心情をいやし給へ。吾？のいやされまたく清められてこそ、愛するに相應しく苦しみにも勇ましく？かさることなく耐忍びえん。愛にまさりてうましきものなく勇ましきものなく、満ちたりて善きものあめつちにある事なし。

－トマス アケムピス－

牙に抗して美事に持ちこたえた大宗教戰爭に於て、彼等のモットーの一つは「一致は力("Unity gives strength.")」であつた。神の民が一つの體、愛の交はりに於て神の御前に、他に向つては深き愛情に於て、この世には、彼等の見ることを得る愛に於て立つ時－その時はじめて彼等は神に求むるその祝福を獲得する能力を有つてであらう。完全に一つであるべき器が割れて仕舞へば物を満たし得よう筈がない。あなたは其の破片を取つて少しの水を掬ひ得ようが、若しその器に充分其を満たさんとせばその器は完全であらねばならぬ。その事はキリストの教會に於て文字通り眞實である。そして我等が一層祈り求むべき一事あるとせば、それは次の事である－主が聖靈の能力により我等を熔かして一つになし給ふこと、ペンテコステの日に彼等を皆、一つ心、一つ魂となし給へる聖靈が、その恩寵の業を我等の間になし給はんことである。神を讃めよ、我等は神の愛にありて互ひに相愛しうる。そは「御靈の果は愛」であるから。あなた自らを愛に明け渡せよ、されば聖靈は來り給ふ。御靈を受けよ、されば彼はより多く愛することを教へ給ふであらう。

1. さて、御靈の果は何故愛であるか？

神は愛であるから

その意義は如何？御自身を與へることを悦び給ふは神の性質そのものである。神に利己主義はなく孤立し給ふことはない。その御性質は常に與ふるにある。太陽と月と星に、凡ての花に空飛ぶ凡ての鳥に、海にある凡ての魚にその事を見る。神はその被造物に生命を與へ給ふ。神の御座をとり巻く天使等、火と燃ゆるセラピム、ケルビム－彼等はその榮光を何處より得しや？そは神は愛にて在し、彼等にその光輝と祝福を賦與し給ふからである。そして、その贖ひ給へる子供等なる我等に神はその愛を注ぐことを善しとし給ふ。そは、既に言へる如く神は孤立し給はないからである。永遠より神はその生み給へる獨子を有し給ひ、御父は彼に萬物を與へ何一つ保留し給ふものとはなかつた。「神は愛なり」

舊き教會師父達の一人は、三位一體をば－御父は愛し給ふもの、即ち愛の泉、御子は愛せらるゝもの、即ち彼に傾注されし愛の貯水池、そして御靈は御父と御子をば結合し、斯して此世に溢れ井でし噴出る愛(Living love)－なる神愛の啓示とし、最もよく理解しようと言つた。ペンテコステの御靈、御父の御靈、御子の御靈－は愛である。そして聖靈が我等また他の人々に來り給ふ時、彼が神に於て在り給ふ愛の御靈以下で在り給ふ筈がない。彼はその性質を變え給ふことはない。神の御靈は愛であり、「御靈の果は愛である。」(以下次號)